

第3章 基本構想の戦略目的 —めざすまちの将来像—

1 基本構想（12年間）におけるめざすまちの将来像

本市は、これまで「小さな世界都市—Local & Global City」の実現を目標にまちづくりを進め、急増するインバウンド※¹、城崎国際アートセンターに世界中からやってくるアーティスト、世界から注目を集めるコウノトリの野生復帰など、一定の成果を挙げてきました。

「小さな世界都市」とは、「人口規模は小さくても、ローカルであること、地域固有であることを通じて世界の人々から尊敬され、尊重されるまち」を意味します。

地方から大都市への人口流出の背景に、社会的・経済的・文化的に「豊かな都市と貧しい地方」、「開かれた都市と閉鎖的な地方」という非常に強いイメージがあり、「豊かで開かれた都市」へと人々が流れていくのだと考えられています。「小さな世界都市」は、人々の持つそのイメージを世界で輝くことを通じて変えながら、「豊岡で暮らすことの価値」を再構築する取組みとして進めてきました。

ここで改めて、本市が「小さな世界都市」になるための条件について考えてみると、その条件は、第1章に記載した重要課題を克服し、社会潮流に適応していく方向と概ね一致していることが分かります。「小さな世界都市」をめざす方向は、長期目標である「命への共感に満ちたまち」をめざす方向と一致していると言えます。

【小さな世界都市になるための条件】

- 1 自然との共生が徹底されている。
- 2 地域の歴史、伝統、文化が守られ、新しい工夫が加わり、引き継がれている。
- 3 優れた文化芸術が創造され、人々が楽しんでいる。
- 4 多様性を受け入れ、支え合うリベラルな気風※²がまちに満ちている。
- 5 内発型の地域産業※³がすくすくと育っている。
- 6 子どもたちが地域への愛着を育み、豊岡で世界と出会っている。

そこで、長期目標の実現に向けた中間目標（＝基本構想の戦略目的）としては、さまざまな選択肢が考えられますが、これまで本市が積み重ねてきた努力と成果を踏まえ、この基本構想の戦略目的（めざすまちの将来像）を「小さな世界都市—Local & Global City」と定めます。

基本構想の戦略目的 —めざすまちの将来像—
小さな世界都市 - Local & Global City -

※¹ インバウンド…訪日外国人旅行。

※² リベラルな気風…寛容な態度を取ること。当然のあり様として認め合っていること。

※³ 内発型の地域産業…外部から誘致する産業ではなく、地域を拠点として活動する産業。